高齢者の肺炎球菌感染症はワクチンで予防！

肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症は、肺炎球菌によって引き起こされる病気です。肺炎球菌は、主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて人から人へ飛沫感染します。感染したとしても必ず発症するわけではありませんが、免疫力が下がると、肺炎や気管支炎、中耳炎などを起こしたりします。また、本来は無菌であるはずの血液や髄液（ずいえき）に肺炎球菌が侵入した場合を侵襲性（しんしゅうせい）肺炎球菌感染症といい、敗血症や髄膜炎などの重い合併症を引き起こすことがあります。

沖縄県の感染症発生動向調査によると、侵襲性肺炎球菌感染症は、平成 25 年 4 月から平成 26 年 12 月末までに 78 例の報告があり、年齢別では、5 歳未満が 22 例（28%）、65 歳以上が 30 例（38%）と、小児と高齢者に多くなっています（図１）。

また、平成 25 年の沖縄県の死亡原因のうち、肺炎は、悪性新生物、心疾患に次いで 3 位になっています（図２）。肺炎のうち、約 3 割は肺炎球菌によるものと考えられており、肺炎で亡くなった方の約 95%が 65 歳以上の高齢者です。

肺炎球菌感染症を予防するには

平成 26 年 10 月から、高齢者を対象とした肺炎球菌感染症の定期予防接種が開始されました。

肺炎球菌感染症の感染や重症化の予防には、ワクチンの接種が有効です。肺炎球菌には 90 種類以上のタイプがありますが、定期接種で使用される「23 価肺炎球菌ワクチン」は、そのうち 23 種類に対して免疫をつけることができます。この 23 種類は、平成 25 年には成人の侵襲性肺炎球菌の原因の約 6 割を占めるという研究結果があります。

定期接種の対象者は、表の通りです。平成 26 年 10 月 1 日時点で 66 歳以上の方にも接種の機会を提供するため、平成 30 年度まで経過措置が設けられています。対象者は毎年度異なりますので、接種の機会を逃さないようにご注意ください。

肺炎球菌感染症の定期予防接種の詳細については、お住まいの市町村にお問い合わせください。

【企画管理班】

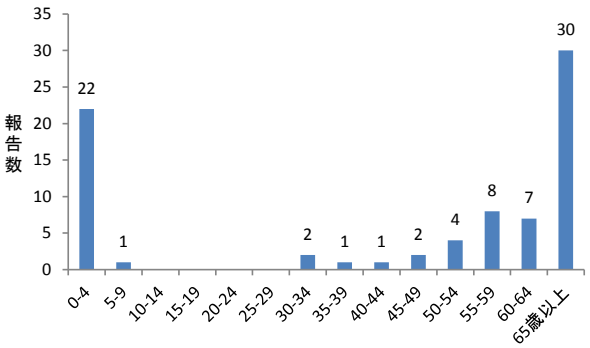

図１. 沖縄県の年齢別侵襲性肺炎球菌感染症報告数
平成 25 年 4 月～平成 26 年 12 月末現在（n=78）

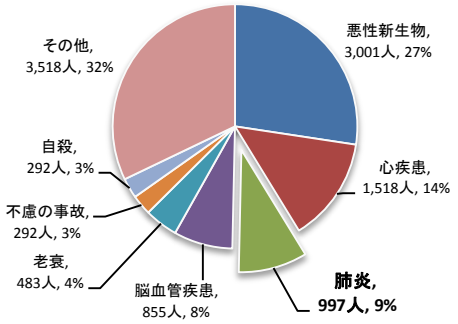

図２. 沖縄県の主要死因別死亡割合（平成 25 年）

表. 肺炎球菌ワクチン定期接種の対象者

（1）対象者
①65歳の方 ②60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に重度の障害がある方
（2）経過措置
･平成26年度から平成30年度までは、各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる方が定期接種の対象となります。 また、平成26年度は101歳以上の方も対象です。

＊肺炎球菌感染症（高齢者）〔厚生労働省 HP〕
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/haienkyukin/index_1.html
＊予防接種スケジュール〔国立感染症研究所 HP〕
http://www.nih.go.jp/niid/ja/schedule.html